

レジメン名

R-FCM

出典

Blood 2004;104:3064-3071

リツキシマブ点滴静注適正使用ガイド2022年12月改訂
リツキシマブBS点滴静注「ファイザー」添付文書2023年9月改訂

実施部署区分

☒入院 ☒外来 ☐処置

対象疾患

低悪性度B細胞性リンパ腫

☒進行・再発
☐補助療法(術前・術後)
☐
☐

投与減量の基準

その他			

投与中止の基準

WBC	1000/mm ³ 未満※	PLT	2.5万/mm ³ 未満※
		Hb	6.5g/dL未満※
その他	※出典に中止基準ないため、Grade4の血液毒性を中止基準とした。		

1クール期間 28日

総クール数 4

(次のクールまでの標準期間)

薬剤名・略号	1日投与量	投与方法	投与速度(時間)	投与日(d1、d8等)
リツキシマブ	375mg/m ²	輸液 1-4mg/mLに希釈	初回は 50mg/hr から漸増※1	d1
フルダラビン(フルダラ)	25mg/m ²	AQ2.5mL/Vで溶解 輸液100mLに希釈	30min	d2-4
シクロホスファミド(エンドキサン)	200mg/m ²	輸液250mL	4hr	d2-4
ミトキサントロン(ノバントロン)	8mg/m ²	輸液100mL	30min	d2
※1 初回リツキシマブの投与速度は50mg/hrで開始し、問題なければ30分毎に50mg/hrずつ上げて、400mg/hrまで上げることができる。 2回目以降、速度を選択することができる。 ①初回投与時に副作用が軽微であった場合、2回目以降は100mg/hrで開始し、30分毎に100mg/hrずつ上げて、400mg/hrまで上げることができる。 ②臨床上に重篤な心疾患がなく、初回投与時に副作用が軽微であり、かつ投与前の末梢血リンパ球数が5,000/mm ³ 未満である場合、90分間で投与(最初の30分で投与量の20%を投与し、その後60分で投与量の80%を投与)することができる。				

1日投与順 (経時的にプレデニゾン・ポストステロイド、 溶解液まで含む)
day1 ①アセリオ(1000)500mg＋ポララミン5mg(15-30min) ②リツキシマブ375mg/m ² ＋生食適量(50mg/hrから漸増※1) ③生食50mL(フラッシュ用)
day2 ①グラニセトロン3mgバッグ(15-30min) ②フルダラ25mg/m ² ＋注射用水2.5mL/V(溶解)＋生食100mL(30min) ③エンドキサン200mg/m ² ＋生食250mL(4hr) ④ノバントロン8mg/m ² ＋生食100mL(30min) ⑤生食50mL(フラッシュ用)
day3-4 ①グラニセトロン3mgバッグ(15-30min) ②フルダラ25mg/m ² ＋生食100mL(30min) ③エンドキサン200mg/m ² ＋生食250mL(4hr) ④生食50mL(フラッシュ用)